40分授業午前5時間制の特色を生かした創意工夫ある教育課程の開発

本校研究主題

自律した児童の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

校長あいさつ　　目黒区立中目黒小学校 校長 山本 真

本校では、平成14年度に学校独自で「40分授業午前5時間制」を導入し、今年度で25年目となります。令和元年度には「文部科学省研究開発学校」の指定をいただき、令和5年11月1日に研究発表会を開催いたしました。それから約3年間、研究主題に「自律した児童の育成」を掲げ、当時の研究内容をシンカ（深化・進化・新化）させるべく、教職員一丸となって、研究を進めてまいりました。今年度は本校の研究のシンカ（真価）を問う年度として、研究発表会を開催いたします。

研究はまだまだ道半ばではありますが、本校の研究の一端を公開させていただき、皆様からご意見やご指導をいただくことで、本校の研究をより一層深め、子どもたちのために、そして今後の教育の発展のために、努めてまいります。

目黒区の研究開発課題と本校の研究主題について

カリキュラム・マネジメントに関する研究に取り組んできた。一単位時間を40分として教育課程を編成しているため、一単位時間を45分としている場合と比べると、第4学年以上の学年では年間約127コマ（5075分）の余白ができる。そのため、本校では児童・学校・地域の実態を踏まえ、40分授業の充実や生み出した時間の有効活用を図りながら創意工夫ある教育課程を編成している。

研究主題を「自律した児童の育成」に設定したのは、21世紀を生きる児童にとって、自らを律しながら生涯を通して学び、自己実現していくための資質・能力を育成することが必要だと考えたからである。令和4年度に実施されたPISA調査の結果を受けて、国立教育政策研究所は、「自律的に学んでいくことができるような経験を重ねることの重要性」と、「自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えたりすることの必要性」を説明している。以上の背景も踏まえ本校では、自律的な学び手を「自ら設定した目標に向けて必要な学習内容や方法を決定し、自分自身の学びを省察しながら、粘り強く、また、協働的に学び続けることができる学習者」とし、そのことを具現化するための教育課程の編成を通して、自らの生活を豊かにしていける自律した児童の育成を目指している。

自律した児童の育成を図るための本校の４つの実践

チームOJT

同僚性の向上とともに、人材育成の機会として、個々の課題意識に基づく学びの場を設定し教職員間の同僚性をより高め、指導力の向上を図る。

マイプラン リフレクション

児童が見通しや目標をもって生活できるようにすることで自律的に行動できる力を高める。また、教師と児童がつながる機会として活用し、安定した学校生活につなげる。

マイプラン学習

単元のほとんどを、児童一人で学び進める学習方法。自分のペースで学習ができ、連続した自己選択の機会により、自律性や自己調整力の高まりが期待できる。

マイタイム

児童が今の自分に必要な学習を選択したり、興味・関心から、目標を設定し、学習を深めたり、広げたりする学習。「自学自習タイム」と「FSPJ」に分かれる。

チーム ＯＪＴ

～ 教員が学び合い、高め合う組織づくり ～

導入の背景

チーム OJT は、コロナ禍により集合研修や校外研修が制限され、教員が学ぶ機会が減少していた頃、放課後の時間を活用しながら校内で継続的に学べる仕組みとして始まった。また、本校では、学年内の連携は活発だったが、学年を越えた交流には課題があった。そこで、学年や専科の枠を越えて学び合う場としてチーム OJT を位置付け、ここで得た学びを最終的に児童のよりよい学校生活につなげることを目指し取り組んでいる。

ねらい

チームOJTのねらいは、主に以下の２点である。

①教員の授業力・生活指導力・学級経営力を高める

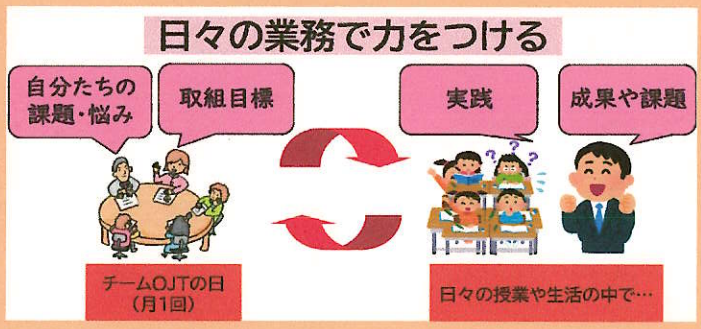
②学年や職層を越えた学び合いにより、同僚性を高める

本校の研究主題「自律した児童の育成」を支えるために、教員の意識改革、児童に関わる姿勢の統一は欠かせない。いつも一緒にいる教員以外と関わる機会を作ることで、同じ価値観をもって児童と接することができるようになると考えている。

チームＯＪＴの実際

チームＯＪＴの方法

<チーム編成>
様々な経験、学年の教員が所属した小グループ編成
<内容>
年度初めに話し合い、各グループでテーマを決定
<計画>
【4、5月】テーマ決定 【6～12月】実践 【1、2月】成果報告会



年度別の取組

令和５年度

「心の余裕をもつ働き方とは」や、「メリハリのある学級づくりを目指して」など働き方や学級経営、ICT 活用など、各グループに所属する教員の困り感や得意分野などからテーマを設定し、実践を積み重ねていった。


「ストレスをためない生活」のテーマに取り組む様子

令和６年度

令和５年度と同様各チームのテーマに基づいた取組と並行して、主任教諭主導の若手研修も実施。それぞれ主任教諭の得意分野に関する簡単なレクチャーや若手教員の相談会などを行った。


中堅の教員が若手の研修を支える様子

令和７年度

授業力向上を全体統一のテーマに設定し、各グループから2～3名授業実践者を決め、互いに授業を見合い、フィードバックを実施した。授業の日時やポイントを紙面にまとめ掲示することで、他グループの教員も参観できるようにした。


指導のポイントをまとめたポスター

毎年、年度初めに話し合い、少しずつ形態や内容を変更している＝自律した教員集団へ

成果と課題

【成果】
・学び合いの活性化
・教員間の関係性向上
・双方向の学び
・悩み、困り感の解消

【課題】
・授業参観の制約
・継続性

今年度の取組

- ★４チーム編成
  （各チームに主任教諭、若手教員１名以上が必ず入る）
- ★テーマは、若手教員のニーズに対応
  （共通テーマがあるときは、一斉の会を設ける）
- ★簡易的なポスターで事前啓発・事後報告

- 若手教員のニーズに応じた柔軟な運用
- 指導案検討
- 若手教員育成重視
- 学びの質の向上
- 外部講師の活用
- 区教委によるフィードバック
- 部門研、その他研修で学んだことについての情報共有など

マイプラン・リフレクション

～生活の中で「見通す力」と「振り返る力」の育成を目指す～

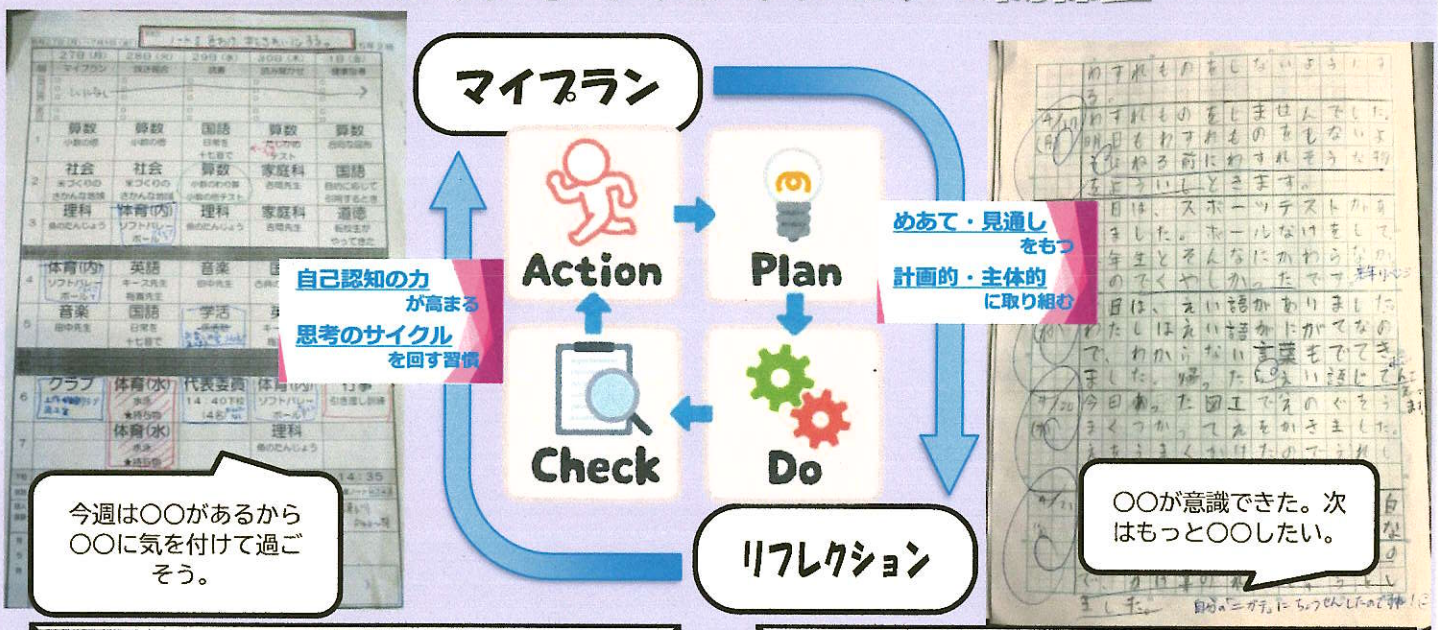
マイプランとは

一週間の学習予定をまとめたプリントをマイプランと呼び、前の週の金曜日に配布し、月曜日の朝の時間にその週の予定を子どもたちと確認する。子どもたちは、週の自分の目標や頑張りたいこと、当番や係の予定や準備物などを考えて、マイプランに書き込むことで、見通しをもって生活できるようにする。

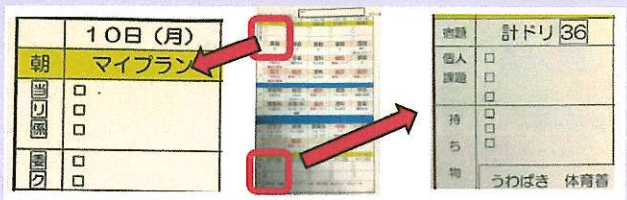
リフレクションとは

自分の学習や生活を振り返り、思ったことや考えたことを毎日書く活動である。多くは、自由に振り返りを書くが、テーマを設定して、自分の立てた目標や印象に残ったことなどの振り返りを書く時もある。給食終了後や帰りの会などに書いており、自身の経験から次に生かす力を養うものである。

マイプランとリフレクションの関係図

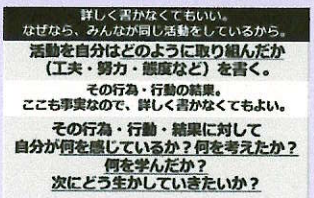


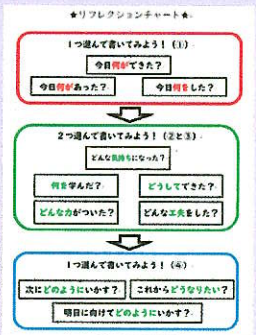
マイプラン「発達段階に合わせた工夫」（高学年）



児童の要望によりクラブや委員会、当番活動など、個別の役割をメモする欄や、宿題とは別に個人課題や持ち物などをメモできる欄を追加している。また、ToDo リストやチェックボックスの項目も取り入れ、児童の生活の質の向上につなげている。

リフレクション「書き方のポイント」と「リフレクションチャート」





学年によっては、出来事作文や日記のようになってしまう児童もいるため、実態に応じて【項目・観点】を「リフレクションチャート」（右側）として示している。

マイプランとリフレクションの価値（教員の声）



- 毎日、朝にマイプランを見て確認しているので、忘れ物が減った。教室移動があるところは色分けすることによって準備が早くなり、授業に遅れなくなった。
- 当番や係活動、縦割り班活動や委員会活動などで、主体的に取り組むようになった。
- マイプランで計画を確認するので、子どもたちに自ら修正・調整する力が身に付いた。
- リフレクションに個人の思いが書かれていると、その子との対話につながる。学級全体で話し合うきっかけにもなった。
- 書くことを通して、子どもたちに自分のことを振り返る習慣が身に付いている。
- 振り返ることで、失敗から学ぶことができた。



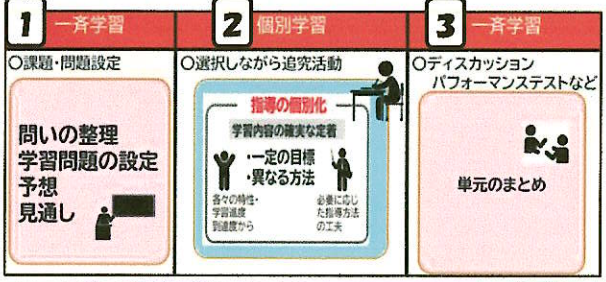
マイプラン学習（単元内自由進度学習）

～児童に学びのコントローラーを委ねる学習スタイル～

マイプラン学習の特徴

○児童一人一人が自分に合った進度・学習資料・方法・環境・人等を選択して、見通し・計画・実行・振り返りを繰り返し、自己調整をしながら学習を進めていく。

○教科としての資質・能力の育成という観点も大切にして、教科固有の見方・考え方を児童が働かせて学習できるよう、児童に委ねる個別学習の前後に必ず一斉学習を行っている。



マイプラン学習のよさ

児童の声

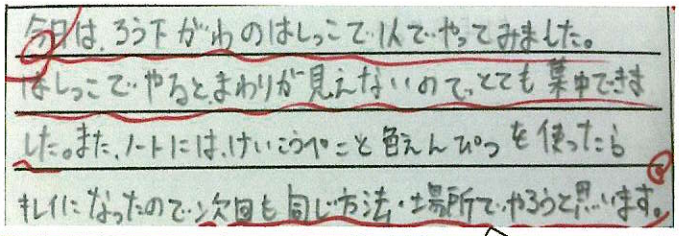
○自分のペースで学ぶことができるから安心して学べる。

○深めたいところを深めることができるから楽しく学べる。

教員の声

○すべての児童の学習の様子を丁寧に観察することができる。

○児童が主体的に学ぶことができるとともに、その中で自らの学びを自己調整する姿をたくさん見ることができる。



第6学年実践事例

理科「私たちの生活と電気」×社会科「国づくりへの歩み」

教師の事前準備

単元決定 ⇒ 学習指導要領解説 ⇒ 教科書比較 ⇒ 児童の実態把握 ⇒ 単元構想完成

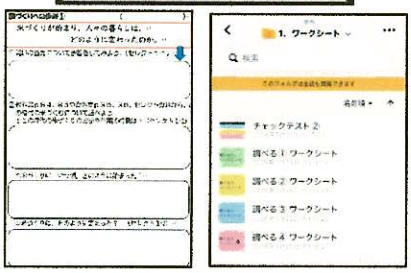


学びの手引き・計画表作成



この単元で身に付けさせたい内容を精選し、学習問題や問いの形にする。児童はこの学びの手引きを見ながら個別学習全時間分の計画を立て、その計画に基づき学習を進めていく。

学習資料の作成



すべての児童が学び進められるよう学習資料を作成する。児童の様々な学び方に対応できるよう、ワークシートも紙で印刷するだけでなく、データ化し学習用情報端末にも格納する。

学習環境の整備



児童が自然と学びたくなるような環境を作るのがポイント。本実践では、本単元専用実験室「ビビビルーム」と、各時代の様子が分かる様々な資料を掲示した廊下を用意。

右側には、単元の流れと児童の様子をまとめています！！

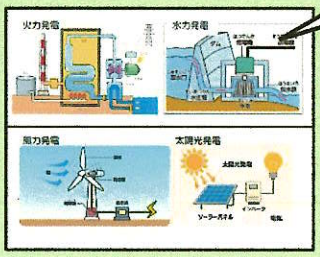


1 はじめの一斉学習の様子



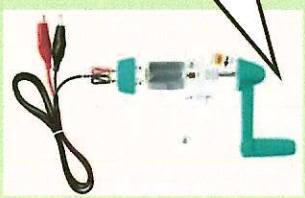
理科「私たちの生活と電気」

各発電所の比較から、発電方法を理解したうえで、手回し発電機と光電池を登場させた。そこから、発電や蓄電などに関する疑問について話し合い、学習問題をたてた。



すべてタービンが回っている!!

きっとこれも…



社会科「国づくりへの歩み」

昔の暮らしの様子について、想像図や教師自作の年表をもとに話し合い、疑問やそれに対する予想をもとに学習問題をたてた。



<学習問題>

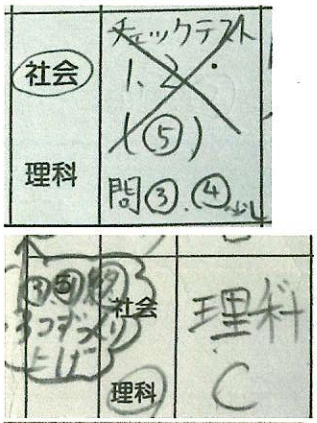
大昔の人々の生活や社会の様子は、どのように変わっていったのか。

2 個別学習の様子

それぞれの学習計画



社会を先に終わらせようとする子
社会と理科を交互に取り組む子



学習計画を繰り下げたり、繰り上げたりする子

様々な学び方



自分で使用する実験道具を考えて、選ぶ様子。



縄文土器と弥生土器を並べて撮影し、違いを捉える様子。



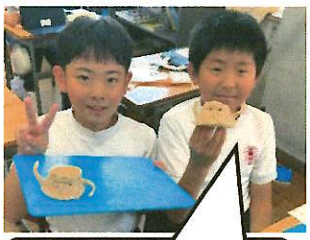


同じ進度でも学び方は様々。必要に応じて友達と交流することも。

発展学習の様子



たくさんソーラパネルを繋げたら、プロペラは動くかな…



はにわを作って大昔の人の気持ちを考えてみたよ。

私たち教員は、児童に学びを委ねるという意識をもちながら、必要に応じて声を掛けたり、質問したりしています。そうした働きかけで学びを価値付け、一人の学びを全体に広めることにより、子どもたちの学びをより深め、広げたり、顕在化させたりしています。

教師は学びの伴走者

3 さいごの一斉学習の様子

電気は4つのものに変換されていることを確認し、どのような家電製品があるか児童全員でまとめた。自分が気になる家電を詳しく調べ、電気代や世代間の比較をしていた。普段どれだけ電気を使っているか驚く児童が多く、節電を心がけようとしていた。また、電化製品を作っている企業の努力に感謝している姿もあった。

「大昔の生活や社会を変えたのは何か」という問いについて、グループ、そして学級全体で話し合い、それを踏まえて学習問題に対するまとめを書く活動を行った。児童が記述した学習問題に対するまとめには、話合いで出てきた言葉がたくさん散りばめられていて、最後の一斉学習の効果を感じることができた。

マイタイム（学校裁量の時間）

～児童に学びを委ねる自己選択学習の時間～

マイタイム とは？

- 週時程金曜日の6時間目に設定
- 自学自習タイム FSPJ（フリースタイルプロジェクト）
- 児童の「やりたい」を実現できる時間

自学自習タイム とは？

自分の学習状況に合った選択をしながら取り組み、調整して学習する教科内自己選択学習

自己選択・自己決定の系統性

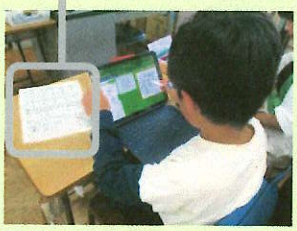


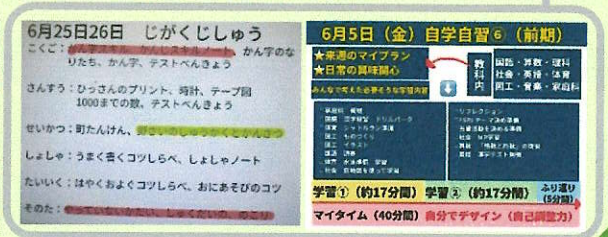
選択・計画

児童の興味・関心や必要感から学習内容を選択し決定する



翌週のマイプランから今の自分に必要な学習内容を考える児童もいます。







導入段階で児童と教師で話し合い、学習内容の選択肢を考えています。

振り返り

学習内容や選択の理由を振り返る



ふりかえりのポイント

- どうしてやってみようと思ったのか。
- やってみたかんそう。
- つぎの時間にやってみたいこと。



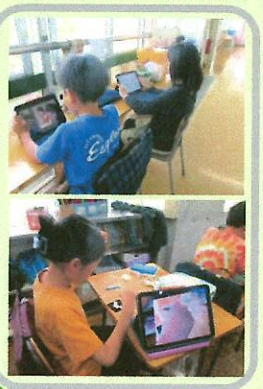
【自己調整力】
自分の学習計画をふりかえり、計画を見直して、もう一度活動を進めよう

廊下にある机で学習を進めたり、自己の学びを記録として残したりする児童もいます。

学年の実態に応じた振り返りの視点を提示し、次回の学習へつなげていきます。

実践

自己の認知特性に合わせた学び方で学習を進める





マイタイムで身に付けたい 資質・能力

- 自己理解力
- 自己調整力
- 追究する力
- 自己実現力
- 自己表現力
- 学習計画力
- 他者理解力

FSPJ（フリースタイルプロジェクト）とは？

自分の目的に合った選択をしながら取り組み、
振り返りと再計画を繰り返し、調整できる
教科の枠を外した自己選択学習

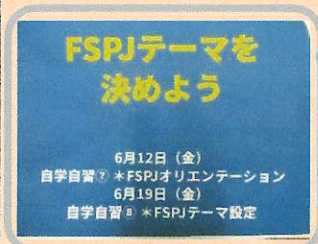
各学年で目指す姿

低学年	様々な学び方（取り組み方）を知り、積極的に選択できる子
中学年	見通しをもって、自分に合った選択をし、計画を進めることができる子
高学年	自分の目的に合った選択をしながら取り組み、振り返りと再計画を繰り返し、調整できる子

計画

児童の興味や関心、
好きや得意からテーマを設定・計画





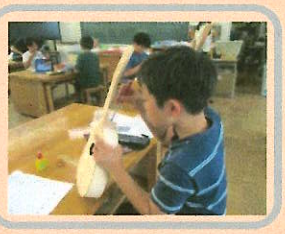


児童と教師で対話をし、児童がより追究できるテーマ設定をサポートします。

教師は、児童の活動を見取り称賛し価値付け、伴走支援をしています。

実践（調整）

児童個々の学習計画に沿って
調整をしながら追究活動





振り返り

自己の追究活動を振り返り、
次の活動に生かす





一単位時間ごとの振り返りも行い、次時の学習内容や活動場所を見直しています。

児童同士がお互いの発表を聴き合うことで、他者理解を深めることを狙っています。

発表会・交流会

追究してきたことを
自己に適した方法で発表

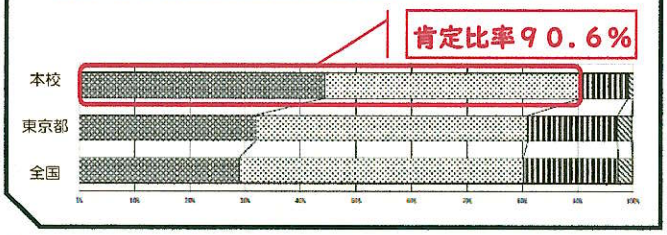




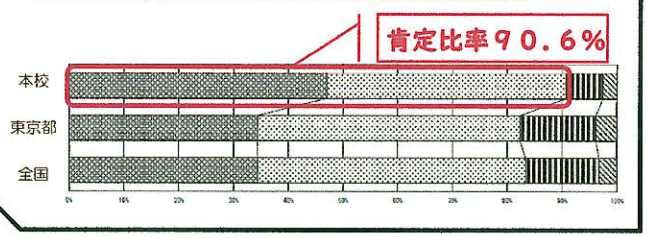
テーマ例 ギター演奏　スライムの作り方　シュートフォームの研究　ぬいぐるみ作り　映画制作　など

マイプラン学習・マイタイムの価値

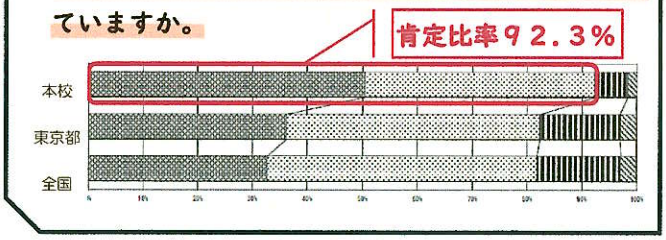
Q ５年生までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



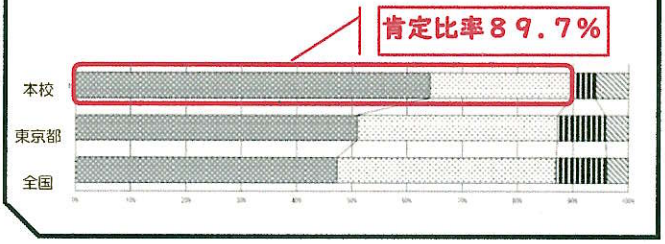
Q ５年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



Q 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



Q 自分には、よいところがあると思いますか。



令和７年度　全国学力・学習状況調査　【児童質問紙】より

自己の興味・関心に合わせて、自己調整しながら取り組むことは、他教科や生活の中でも生かされ、何よりも児童が生き生きと活動をしている。

友達と一緒に取り組むのではなく、自分が興味をもったことについて、自分の力でやり切るとやりがいもあるし、達成感も感じられる。



教員の声





児童の声



自分で計画を立て、実践し振り返る活動を通して、自分自身のことを見直す児童の姿が見られる。活動を通して自己理解を深めることで、より自分に合った選択ができるようになっている。

自分に足りていない、追いついていない学習ができて、自分のやりたいことに合わせられるから楽しい。

自分に合った学び方と進度で取り組めるのがよい。

あとがき

目黒区立中目黒小学校　副校長　田中　裕美

令和元年度～令和8年度、文部科学省研究開発学校として、40分授業午前5時間制の特色を生かした創意工夫ある教育課程の開発のために、40分授業午前5時間制のトップランナーとしての自覚をもち研究開発に取り組んできました。本校の研究主題でもある「自律した児童の育成」を目指すために、単元内自由進度学習、FSPJ、自学自習タイムなど、東京学芸大学講師の佐野亮子先生のご指導や先行実践を参考に授業研究を行いながら、中目黒スタイルを追究してきました。

これまでの研究で得た成果を生かしつつ、今後も中目黒小学校の児童のよりよい成長と変容のために、職員とともに研鑽を重ねてまいります。

本校ウェブサイトはこちらから

本校の４つの実践について説明動画を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。